

あぶらめん

121

各區だより



春の気配を感じて
梅の呈茶にたくさんのお客様
油面小学校で「雪アソビ」

油面クラシックコンサート 目黒弦楽四重奏団



気分はヴァイオリニスト
みんなで楽しくカノンを弾こう

昨年11月11日、油面住区センタープレイルームにて第16回油面クラシックコンサートが開催されました。目黒弦楽四重奏団による今回のテーマは「世界の街角で見つけた秋」。パリの街を散歩している気分にかけてくれるバラ色の人生やパリの空の下、オー・シャンゼリゼなどのシャンソンを演奏。

そして新しい試みとして小学生にも気軽にクラシックを親しんでもらおうと、「あなたもヴァイオリンでカノン



が弾ける」といった新企画も登場。子どもたちがはじめてヴァイオリンに触れてプロと演奏。もちろんクラシックの大曲「弦楽四重奏曲作品11（バーバー）」なども聴くことができました。



編集後記
油面小学校で開催された「雪アソビ」は多くの子どもたちに楽しんでもらえました。日頃お世話になっている油面小学校PTAのみなさん、おやじの会のみなさんなどの協力で開催されました。これからも地域の話題を「住区だより」で発信していきます。

油面小学校で「雪アソビ」

この日の油面小学校はまるで雪国のよう。校庭に雪山が出現！青空のもとで子どもたちが雪アソビに夢中。油面住区青少年部で初のイベント開催。

油面小学校校庭に新潟県十日町市から雪が届きました。10トントラックいっぱい積んだ雪が校庭に下ろされ、住区青少年部のみなさんと油面小学校PTA、おやじの会のみなさんたちが校庭に雪の山をつくりました。

2月24日、油面小学校の校庭にはみごとな雪山が完成。未就学を含め400人近い子どもたちが遊びに来ました。さっそく雪だるまをつくる子どもや雪山でそりすべりを楽しむ子どもたちは元気いっぱい。午後2時からPTAのお母さん方がつくったスープがふるまわれ、マイカッパ持参の子どもたちから優先に配られました。「エコ意識が少しでも高められれば嬉しいですよ」とPTAのお母さんたち。校庭の入り口では、たま入れなどのゲームで盛り上がる子どもたちもいます。はじめての雪アソビに子どもたちはおおはしゃぎ。

東京に雪が降っても後始末が大変でこういう雪アソビはあまりできないのでぜひ続けてほしいという多くの声が聞かれました。この日の油面小学校は雪国へ来たようです。



春の気配を感じて 梅の呈茶にたくさんのお客様

2月11日、前夜からの雨も上がり油面公園にある梅林の下で「梅の呈茶」が開催されました。油面公園には子どもから大人まで多くの来場者があり梅を眺めながらイベントを楽しみました。

呈茶（ていちゃ）とはお客さまにお茶を差し上げること。厳密に言えば茶道のお茶会ではなく略式でお茶を供すること



です。紅白の梅が程よく咲くなか、裏千家の武井宗澄先生とお弟子さんたちによるお抹茶と「えくぼ饅頭」がふるまわれました。梅の木にはときわ会のみなさんが詠まれた俳句が掲げられ、初春の雰囲気を盛り上げていました。お茶を点ててくださったお弟子さんからは「地域の方々が参加されてすごいですね。青空の下でこういったお茶会をすることがないので、開放的だと思います」と話していました。今回で二回目の、「梅の呈茶」は油面住区福祉部が中心となって開催。今後も地域の人たちと一緒に楽しめるイベントを考えていきたいと思っています。



油面の風物詩 高地蔵尊命日供養節分会

地域の人たちに、子育て地蔵と呼ばれて親しまれている油面の高地蔵尊。もとは目黒通り（昔の二子道）の油面交番向かいの小高い角地に立っていました。昭和9年に道路拡張工事のために現在の場所に移転。土手の上に総高2メートル以上もある高い地蔵が祀られていたので「高地蔵尊」と名付けられたようです。

享保のころ、江戸は連年の飢饉や大火で生活困難のため多くの死者を出しました。その人たちの冥福、救済を願って享保18年（1733）7月に祐天寺において供養が営まれ六十六

部供養塔と共に祀られています。もともとは祐天寺への参道だった油面地蔵通り商店街、地域の人たちがお地蔵様の帽子を作ったりお掃除をしたり、お花を飾ったりして大切に守ってくださっています。

2月3日、油面商店街振興組合の平山孝理事長が最初にあいさつをされ供養が始まりました。供養を終えて祐天寺のご導師さまから鬼を追い払って元気な子に育つようにとのお話がありました。そのあと油面地蔵通り商店街の3か所で節分会の豆まきが行われました。

